

業 務 報 告

昭 和 40・41 年 度

日 野 市 立 図 書 館

発刊に際して

私はだいぶ以前から、公共図書館こそ近代社会建設の礎であると考えていました。もちろん、今でもその気持に変りはありません。そのため私は、日野市長に就任するまでの過去25年間図書館発展のため微力ながら力をつくしてまいりました。当時私はたいへん残念でならないことがあります。それは、住民による公共図書館の利用が、諸外国とくらべ非常に低いということです。世界有数の出版国であり、また文盲率もきわめて低いわが国ではありますが、どうも市民の読書が公共図書館と結びついていないのが実情でした。

数度にわたる海外の視察を通じ、私は日本でもやり方によっては、外国なみの図書館サービスは可能であると思いました。日本の風土にあった方法が確立され、それが現場に導入されれば、必ずや活潑な図書館活動が展開されうるものと確信いたしました。

そして私は、多年にわたる経験と、現代の図書館学理論から私なりの方法論を提唱してまいりました。私は図書館をこう考えております。一軒一軒の家庭が各戸バラバラに本を買うのではなく、市が税金によって本を買い、それを市民に貸出し、各

家庭における図書費の軽減をはかる、こうして税金によって、市が資料、ひいては知識を保障する機関、これが公共図書館だと考えております。私の図書館運営論は、すべてこうした図書館の社会保障的性格を強調するところから出発しております。

幸いにして二年前、私は日野市長として、日野市の市政をおあずかりする機会を与えられました。私は、市民への当然のサービスとして、教育委員会を通じ、図書館サービスが一日も早く市民の間に浸透するよう配慮いたしました。

具体的には、私の方法論の導入をはかるとともに、優秀な職員をそろえ、建物はあとまわしにしても、市民の手にわたる資料のための支出は惜しまないという図書館経営を推進いたしました。

発足いらい二年にみたない図書館ではありますが、関係者のまじめな努力と、市民の皆さまのご理解をえて、年間貸出冊数20万冊を突破する市立図書館が、ここに誕生いたしました。これは長い間の日本の公共図書館界の不振を一掃する画期的な記録です。日本でも運営方法によっては、市民に活用され市民の家計をたすける図書館経営が可能なのです。少なくとも、その可能性の芽は出はじめたと言ってよいでしょう。

図書館の仕事は、二年や三年で評価できるものではありません。長い間のたゆまない努力によって、はじめて市民の役にた

つ図書館となるものと思います。この意味において、まだまだ図書館がしなければならない仕事はたくさんあります。しかしそれでも、これまでの成果は市民の手による市政の運営を信条とする私にとって、より市民への期待を大きくさせるものがありました。

いま私は、このような実績を報告できる日野市の理事者として、大きなほこりと喜びでいっぱいです。

このうえは、このたびの報告書の上梓を機会に、できるだけ多くの市民の皆さんに、これまでの努力のあとをお認めいただくとともに、今後の図書館経営に対し厳しいご指導、ご叱責をお願いするものであります。

昭和42年3月1日

日野市長 有山松

発刊にあたり

市立図書館の業務報告をおとどけ致します。当市の市立図書館は、他市のそれと比較していろいろな特長があります。それらのこまかい点については、この報告をお読みいただくとして最も大きな特長は、図書館業務が「市民のために、市民によって」行なわれていることであろうと思います。市民の日常生活にこれだけ必要とされている図書館は、他にあまり類を見ないものではないかと思っております。

教育は人間の一生の事業であり、一人一人が自発的に自己を高め社会を進めるために行なわれるものであります。図書館は市民に知識の糧を提供し、自己教育を促がす「市民の大学」であります。日野市立図書館はまだ発展途上の図書館であり、名実ともに市民の大学となるには多くの困難を克服しなければなりません。しかし、わが国におけるこの道の権威者を市長にいただいた日野の教育、日野の図書館は必ず市民の皆さんに誇るに足るものとなるであります、しなければなりません。

今後とも一層のご支援をお願い申上げます。

昭和42年3月1日

日野市教育長 永野林弘

目 次

I	日野市立図書館の方針	7 頁
	日野市立図書館はどういう図書館か	7
	日野市立図書館の運営方針	8
II	図書館の業務計画	12
	図書館の創設	12
	昭和40年度奉仕計画	17
	昭和41年度奉仕計画	26
III	図書館の施設	34
	高幡図書館	34
	多摩平児童図書館	36
	移動図書館車	37
IV	貸出し	46
	貸出しの方針	46
	貸出方法	47
	利用実績	50
	予約サービス	56
	図書館の P R	66

V 資料とその整理	69
図書整理の考え方	69
図書受入れ	71
目録	76
蔵書	83
新聞・雑誌	90
VI 庶務	91
予算と決算	91
図書館協議会	96
職員	98
VII 図書館のあゆみ	101